



No.185

2025.10.20

高知県理学療法士協会ニュース

発行：公益社団法人 高知県理学療法士協会

contents

❖ フォトコンテスト作品・目次	①	❖ 第38回高知県理学療法士学会	⑩
❖ 公式SNS情報	②	❖ 理学療法週間イベント	⑪
❖ 巻頭言：大畑会長	③	❖ 新人・転入会員歓迎会	⑫
❖ 組織図	④	❖ 会員Baby「赤ちゃんこんにちは」	⑬
❖ 役員紹介	⑤	❖ 高知県理学療法士連盟だより	⑭
❖ 会員リレー紹介	⑨	❖ 知読万恵	⑮
❖ 所属紹介「くぼかわ病院」	⑩	❖ 賛助会員	⑯
❖ 所属紹介「あいおい」	⑫	❖ 編集後記	⑰
❖ 教えて！生涯学習制度	⑭		

公式SNS情報

SNS

はじめました

各種ご案内やお知らせをお届けします!!



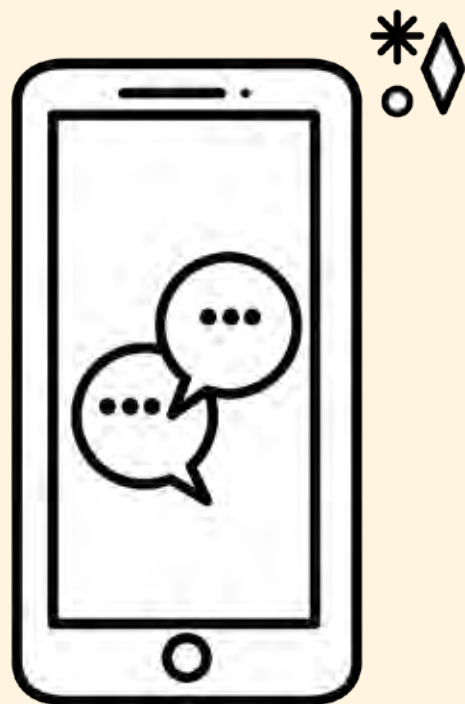
https://x.com/Kochi_pt_kyokai



<https://instagram.com/kochi.pt.kyokai>



<https://facebook.com/share/1A3GWaejtm>



ぜひご登録ください!!

公益社団法人 高知県理学療法士協会

巻 頭 言

私たちのこれからの課題

会員の皆様におかれましては、平素より本協会の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

今年度、本協会では円滑かつ効率的な事業展開を目指し大幅な組織再編を実施しました。従来の事業運営においては過去の継続事業が中心となり、変化に乏しい側面が見受けられました。そこで事業内容の整理・可視化を図りつつ、各部の管轄範囲を再定義することで、より柔軟かつ実効性の高い運営体制に整備しました。再編の一例として、新設された「専門領域推進部」では各専門領域の理学療法における研究・技術向上を目的に、情報収集や調査活動の展開、ブロック局と連携した研修会の企画開催、ならびに領域別症例検討会の実施を担うこととしました。これにより会員の学術的発展と専門職としての更なる地位向上を図っていく所存です。

なお今回の役員改選に伴い、長年にわたり協会運営に多大なる貢献を頂いた山崎会員、井上会員、福岡会員、西村会員が退任されました。これまでのご尽力に深く感謝申し上げます。

さて、執行部における当面の重点課題として、「会員組織率の低下」が挙げられます。令和7年1月時点の日本理学療法士協会(以下、日理協)調査によると令和6年度の全国入会率は54.3%と約半数に留まり、休会会員の影響も相まって、会費納入会員数は減少傾向にあるとの報告がされています。本協会においても令和6年3月末と令和7年3月末を比較したところ、在会者数が1,347名から1,305名へと42名減少しています。これらの状況を鑑み、公益社団法人としては国民・県民へのサービス提供を維持しつつ、会員にとっても魅力的な施策の充実に努めてまいります。

次に生涯学習プログラムの推進についてですが、現時点でとりわけ40代以上の会員における「登録理学療法士」へのポイント取得率が低調であることが明らかとなっています。医療専門職としての理学療法士にとって、生涯を通じて知識・技術の向上を続けることは不可欠であり、登録理学療法士資格の維持は我々の専門性を社会的に示す重要な手段であると考えています。ぜひとも各会員におかれましては、改めて生涯学習へ真摯に取り組まれることを望みます。

話題は変わりますが、本年7月20日に日理協の組織



会長 大畑 剛

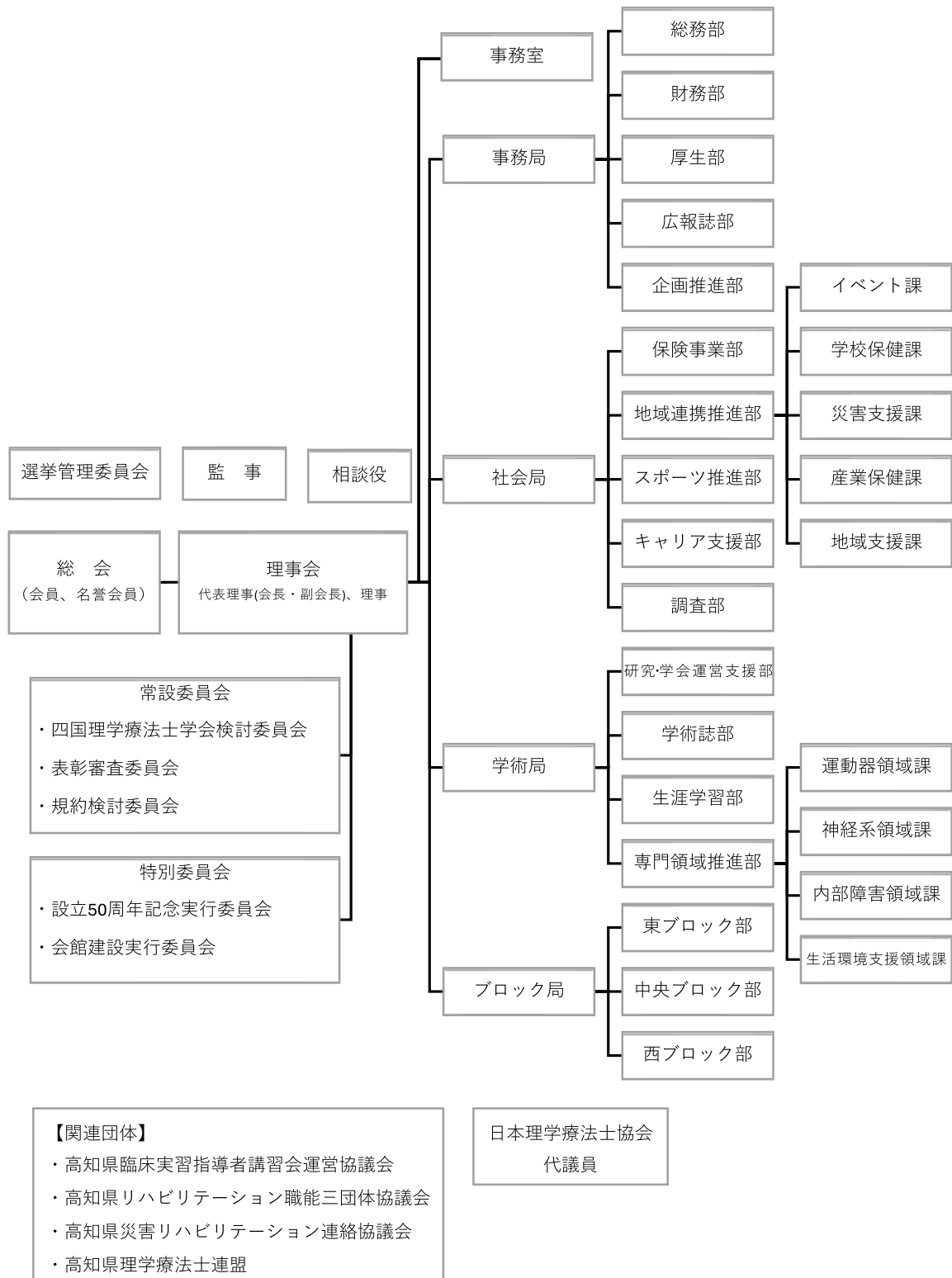
内候補田中まさし氏の参議院議員継続をかけた選挙が行われました。理学療法士の将来的な社会的地位を左右する重要な選挙でしたが、誠に残念ながら落選という結果となり、医療行政におけるリハビリテーション分野の位置付けに不安を残すこととなりました。しかしながら、どのような状況でも、会員一人ひとりが「私は理学療法士です」と自信を持って言えるような社会的地位の確立を目指し、今後も協会として全力を尽くしてまいります。皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



「次回のチャレンジに向け」

東連盟会長・大畑・田中まさし氏・田中連盟副会長

公益社団法人 高知県理学療法士協会 組織図



訂正とお詫び

前号184号14ページの公益社団法人高知県理学療法士協会組織図において
監事と表記すべき部分が幹事となっておりましたので、訂正させていただきます。

理 事



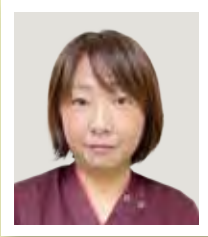
会長、会館建設実行委員長、
創立50周年記念実行委員

大畑 剛
愛宕病院



副会長(事務局長)
規約検討委員長

八坂 一彦
高知医療学院



副会長(社会局長)

細田 里南
高知大学医学部附属病院



理事(学術局長)

高芝 潤
近森リハビリテーション
病院



理事(ブロック局長、
連盟だより)

東 大和生
くぼかわ病院



理事

和田 譲
須崎くろしお病院



理事

竹林 秀晃
高知健康科学大学



理事

金岡 寛起
南国中央病院



理事

木下 雄介
介護複合施設 輝



理事

宮崎 貴仁
高知病院



理事

岡部 孝生
高知健康科学大学

監 事



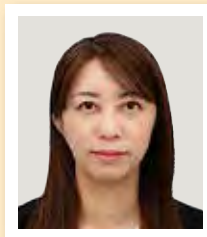
監事

市村 瑞也
南国病院



監事

栗山 裕司
高知リハビリテーション
専門職大学



監事

野村 章子
池田税理士事務所

事務局

協会の運営が円滑に進むよう日々の実務を担い、各部の活動を支える中枢機能を果たしている部門です。“見えないところで協会を支える縁の下の力持ち”として、円滑な運営と信頼ある協会づくりに取り組んでいます。



総務部長

榎本 晃久
愛宕病院



財務部長

谷脇 弘将
高知病院



厚生部長

江口 智博
近森リハビリテーション
病院



広報誌部長

濱尾 英史
いずみの病院



企画推進部長

三谷 征也
芸西オルソクリニック

社会局

理学療法士の専門性を活かして社会とつながる活動を推進する中枢的な部門です。「社会に開かれた理学療法」を実現するため、局全体で連携・統合しながら、幅広い分野での理学療法士の活躍を後押ししています。



保険事業部長

田中 健太郎
近森病院



スポーツ推進部長

星 大輔
田中整形外科病院



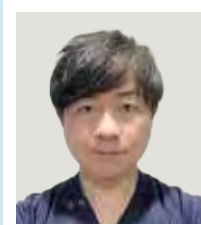
地域連携推進部長

徳弘 健
高知赤十字病院



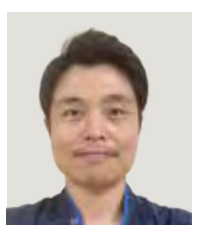
キャリア支援部長

那須 桃子
高知病院



調査部長

安村 広之
近森リハビリテーション
病院



イベント課長

小松 弘典
近森オルソ
リハビリテーション病院



学校保健課長

重島 晃史
高知リハビリテーション
専門職大学



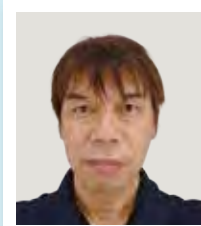
災害支援課長

森下 誠也
田野病院



産業保健課長

徳弘 郁絵
重症児・者サービス
ずうっと



地域支援課長

江沢 聡
土佐市福祉事務所

学術局

理学療法士としての専門性・資質の向上を支える学びと研究の中心的な役割を担う部門です。会員の皆さまが学び、考え、深め続けることで、より良い理学療法を实践できるよう支援していく、“知の土台”となる局です。



学術誌部長

柏 智之
高知リハビリテーション
専門職大学



研究・学会運営支援部長、
四国理学療法学会検討委員長

島岡 秀奉
高知県立あき総合病院



生涯学習部長

奥田 教宏
高知健康科学大学



専門領域推進部長

渡邊 家泰
高知健康科学大学



運動器領域課長

栗山 安広
高知県立あき総合病院



神経系領域課長

門脇 一弘
近森リハビリテーション
病院



内部障害領域課長

明崎 禎輝
高知リハビリテーション
専門職大学

ブロック局

高知県内を地域ごとに分けた3つのブロック(中央・東・西)を統括し、地域に根ざした活動を推進するための連携と支援を行う局です。“地域と会員をつなぐ架け橋”として、理学療法士の活動が地域に根付くための土台を築いています。



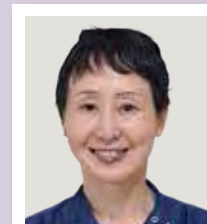
東ブロック部長

阿部 誠
南国中央病院



中央ブロック部長

明崎 禎輝
高知リハビリテーション
専門職大学



西ブロック部長

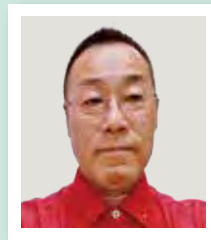
米津 小巻
筒井病院

委員会



選挙管理委員長

細田 隆之
田野病院



表彰審査委員長

清岡 学
自宅

事務局



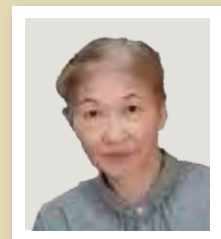
事務局

山本 双一
事務長



事務局

石川 尚子
事務員



事務局

織田 妙子
事務員

第53回 四国理学療法士学会

in 香川

「理学療法の深化と進化」

2025年11月29日(土)・30日(日)
サンポートホール高松

みんなが暮らしやすい住環境提案
リフォーム＆福祉用具



🌐 <https://aico.tosagas.co.jp/>



aico

[あいこ]

★ 土佐ガス株式会社

● 朝倉
☎ 088-828-8580

📍 高知市朝倉西町1丁目10-16
🕒 月曜～金曜 9:00～17:30 (祝日・年末年始を除く)

● しまんと
☎ 0880-35-4372

📍 四万十市古津賀1丁目139
🕒 月曜～金曜 9:00～17:30 (祝日・年末年始を除く)

会員リレー紹介

リハビリテーション病院 すこやかな杜 市川 和史

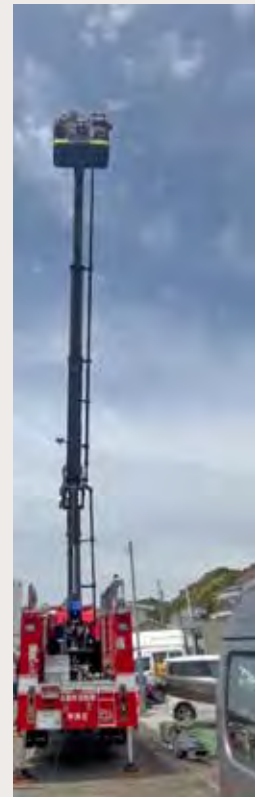
皆さんこんにちは。同じ職場で勤務している黒石（旧姓住本）佳奈さんからバトンを受け取りました市川和史です。

2017年に高知医療学院を卒業し、当院に入職して9年目となります。回復期病棟で2年間、訪問リハビリで6年間勤務させていただき、今年度からは回復期病棟で勤務しております。久しぶりの回復期病棟で浦島太郎状態となっており四苦八苦していますが、上司や先輩、同僚、周りの職員に助けをもらいながら働くことができています。今まで生活期リハで培った経験や視点を強めとし、「回復期リハ」の患者さんにも還元できるような関わりをしていきたいと意気込んでいます。

私生活では家族と外出することが楽しみとなっています。先日は息子と高知市内のイベントに参加し、消防車のハシゴ車に乗せてもらうなど私自身も初めての経験をさせていただきました。これからも息子と色々な場所に遊びに行き、新しいことを体験していこうともくろんでいます。

以上簡単ではありましたが自己紹介とさせていただきます。

次は内田脳神経外科で勤務している同期の竹政亮汰さんにバトンを繋ぎたいと思います。よろしくお願いします。



愛宕病院分院 前田 慎太郎

皆さんこんにちは。愛宕病院の小林夏渚華さんよりバトンを受け取りました、愛宕病院分院の前田慎太郎です。私は昨年度高知医療学院を卒業し当院に入職しました。当院は180床の病院で、リハビリテーション科には20名のスタッフが在籍しています。リハビリテーション科の特徴として、新人研修制度が充実していることがあげられます。卒後3年目までは業務時間内での自己学習制度や、バイザー制などがあり、私にとっては非常にありがたい制度です。この制度のおかげで先輩方のサポートを受けながら、今年の高知県学会で初めての学会発表を行うことができ、秋には慢性期学会でも発表する予定です。この経験が臨床での力に繋がるよう努力していきたいと思っています。

さて私は今年8月初旬、友人に勧められ観葉植物の苗を購入しました。映画「レオン」で主人公レオンが大切に育てていた「アグラオネマ」です。最初は枯れさせてしまうのではと不安でしたが、今では毎朝の水やりが日課となり少しずつ葉を広げていく姿に癒しをもらっています。植物も人も、環境や関りによって大きく成長するものだと感じています。患



者さんと向き合う中で、私自身もこの小さな苗と共に、少しずつ成長していけたらと思っています。これからも患者さんの笑顔のために、心を込めて一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

次は学生時代に勉学はもちろんのこと、プライベート面でも多くの相談に乗っていただき支えて頂いた、高知医療学院の恩師である園田義顕先生にバトンを繋ぎたいと思います。園田先生よろしくお願いします。

所 属 紹 介

医療法人川村会
くぼかわ病院
リハビリテーション部
主任 中山 剛



くぼかわ病院は四万十川中流域の四万十町（旧窪川町）にある病院で、昭和63年4月に開設されました。当時はこの地域に大きな病院が無く、救急車で高知市内へ運ばれる途中で命を落とされる患者が少なくなかったようで、故先代理事長の川村明廣医師がこの地域の住民の命を救いたいとの思いで開設された病院です。

地域に根付いた医療の提供、救急から在宅までを担う地域の拠点病院として成長し、現在は急性期一般病棟（DPC対象）50床、地域包括ケア病棟42床、回復期リハビリテーション病棟46床、医療療養病棟34床の計172床、診療科は整形外科を中心に、内科、外科、脳

神経外科など計18診療科を有する医療機関となっています。平成26年には元高知大学医学部整形外科教授の谷医師、海外で脊椎外科手術の経験を積んだ木田医師を招聘し、脊椎外科センターを開設、令和6年からは内視鏡化脊椎手術が専門の公文医師が加わり、現在では脊椎外科が当院の顔になっています。また災害拠点病院に指定されており、DMAT、KORAT（高知県災害リハビリテーション連絡協議会）には当院の職員も関わっています。

当院は故先代理事長がリハビリテーション専門医であったことからリハビリテーション医療に力を入れており、開設当時1名だった理学療法士数は現在20名近





四万十町近隣機関との総合災害訓練の様子

くまで増え、訪問リハビリテーションなどの在宅分野にも人員を配置できるようになりました。またスタッフの平均年齢は30代と若く、活気のあふれる職場となっています。

理学療法部門ではスタッフ教育に力を入れ、日本理学療法士協会の生涯学習プログラムを積極的に活用し、登録理学療法士、そして認定・専門理学療法士の取得を目指しています（現在、理学療法教育と糖尿病理学療法の専門理学療法士が在籍）。他にも地域ケア会議推進リーダーや介護予防推進リーダー、フレイル対策推進マネージャーの資格を取得し、病院の中だけでなく地域においても活躍できるスタッフを育成しています。また臨床実習教育にも力を入れており、高知県臨床実習指導者講習会を受講したスタッフが複数人在籍しております。先にも述べたとおり当院には多くの診療科があるため、さまざまな疾患を経験することができ、とても勉強になる環境です。

さて当院のある四万十町は自然にあふれ、食べ物が美味しい地域です。四万十川流域、興津海水浴場周辺でのキャンプはとても気持ちがいいです。バーベ

キューでは四万十ポーク、窪川牛、そして鮎の塩焼き、仁井田米の新米。飲食店では四万十うなぎ、満洲軒のじゃん麺。喫茶淳のコーヒー。酒は文本酒造のSHIMANT、焼酎は無手無冠のダバダ火振。食べて、飲んで、学んで、仕事とプライベートともに充実できる自慢の職場です。



実習生とのディスカッション

所 属 紹 介

医療法人野並会
介護老人保健施設あいおい
主任 松本 陽介



介護老人保健施設あいおいは、医療法人野並会高知病院の併設施設です。法人としてはサービス付き高齢者住宅「casa Nとさ」、居宅介護支援事業所「しんぼり」、キッズルーム「あいあい」を有しています。高知駅から徒歩5分の位置にあり、近くの「高知病院・リハビリ相生町公園」は季節により桜や紫陽花を楽しみながら歩行練習が行える環境になっています。来年設立で30周年を迎えますが、私は2007年から所属しておりPT人生の半分以上を共に歩んでき施設です。

介護老人保健施設には、包括的ケアサービス施設・リハビリテーション施設・在宅復帰施設・在宅生活支援施設・地域に根差した施設の5つの役割があります。当施設では「介護老人保健施設の“5つの役割”

に基づいたサービスを行う」「ご家族と共に、ご利用者のペースに合わせたケアを心がける」の2つの理念を掲げ、職員間で共有し質の高いサービスが提供できるように取り組んでいます。

当施設には、入所サービス・短期入所サービス（全50床）、通所リハビリテーション（定員40名）、訪問リハビリテーションの4つの事業があり、それぞれ医学的管理や生活支援、リハビリテーション等個々に合わせたケアプランに基づき、自立のための支援を行っています。また施設類型としては「超強化型」を取得しており、入所前後の訪問等を積極的に行い、在宅復帰率やベッド回転率を維持することで在宅復帰を前提とした施設としての役割を果たしています。

現在のリハビリテーションスタッフは理学療法士5



名、作業療法士2名、言語聴覚士1名（週1日）で業務に当たっています。30代～40代のスタッフが中心となり、「自らが積極的に体を動かし、自分らしい生活を取り戻す」ことを目標に、在宅復帰・在宅支援を支援しています。リハビリテーションは全サービス共通して個別での対応を基本としています。リハビリテーション3職種が揃っていること、スタッフ数を多く配置していることが一人ひとりの利用者に合わせた個別対応のためのプラス要素になっていると感じます。また入所リハビリテーションから通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションまで継続してサポートができる環境にあるため、1人の利用者と深く関わることができています。

その他各種委員会活動にも力を入れています。令和2年1月10日に施設長より当施設のノーリフト宣言を受け、「ノーリフティング推進チーム会」を発足し活動しています。まだまだ浸透しているとは言えない状況ですが、腰痛予防や職員・利用者双方を守る観点から必要な活動であると考えています。また認知症の高齢者が増えてくる時代に対応できる人材育成を目標に「認知症ケア推進チーム会」を編成し、定期的に勉強会を開催しています。今年度は「サービス向上委員会」を「生産性向上プロジェクトチーム会」に再編し、ICTの導入による業務の効率化や働きやすい環境作りにより、業務が円滑にできるよう、また利用者へのケアに還元できるような体制作りを目指しています。

最後に施設での行事や活動について紹介したいと思います。コロナ禍の影響でしばらく中止になっていましたが、高知病院と合同で行う「納涼祭」が今年から再開されました。夜店や花火大会、ビンゴゲームなどの催しがあり、毎年たくさんの方に来場いただい

ます。5月には「あいおい祭」を開催しています。ここ数年は防災をテーマに、起震車体験やけむり体験などをメインに、高知市消防音楽隊による演奏、介護相談やバザーなどを行っており、皆さまからご好評いただいています。高知病院で同時開催される「健康市」では地域医療講演会もあり、毎年違ったテーマで専門医による講演を聞くことができます。他にも地域の方を対象に月2回の折り紙教室の開催や、通所リハビリテーションでは、防災士としても活動している介護福祉士が中心となり、身の周りのものを使って防災グッズを作ったり、災害にちなんだクイズや啓蒙活動を行ったりしています。職員、利用者ともに楽しみながら、またその様子をご家族にも通信等で発信することで、日頃から防災の意識を高めています。また年に2回程度、リハビリテーションの一環として「おでかけ」に出かけています。自分の足で歩く、車椅子を駆動する、物を選ぶ、お金を払うなど、身体機能、認知機能面の活性化を図り、生活動作・社会的交流を通じて心身ともにその人らしい生活を取り戻せることを目標に行っています。リハビリスタッフが同行し春には近くの桜の名所に屋外歩行に、秋にはお小遣いを持って「買い物リハビリ」に出かけ、高知駅ができたばかりの時は駅の見学にも行きました。「次は孫が行っているイオンに行ってみよう」といった希望も出てきて、自分たちで行き先を決められるようなお楽しみイベントの側面もあり、毎回たくさんの利用者に参加いただいています。

介護老人保健施設は今、様々な課題に直面していますが、同時に求められる役割は多岐に渡っています。医療と介護の架け橋となり、利用者から必要とされる老健施設を目指して一層の努力を重ねていきます。



教えて！生涯学習制度

～認定理学療法士取得編～



生涯学習部長 奥田 教宏

これまでのシリーズでは、登録理学療法士の取得から更新方法についてお知らせしてきました。今回は認定理学療法士の取得についてお知らせしたいと思います。

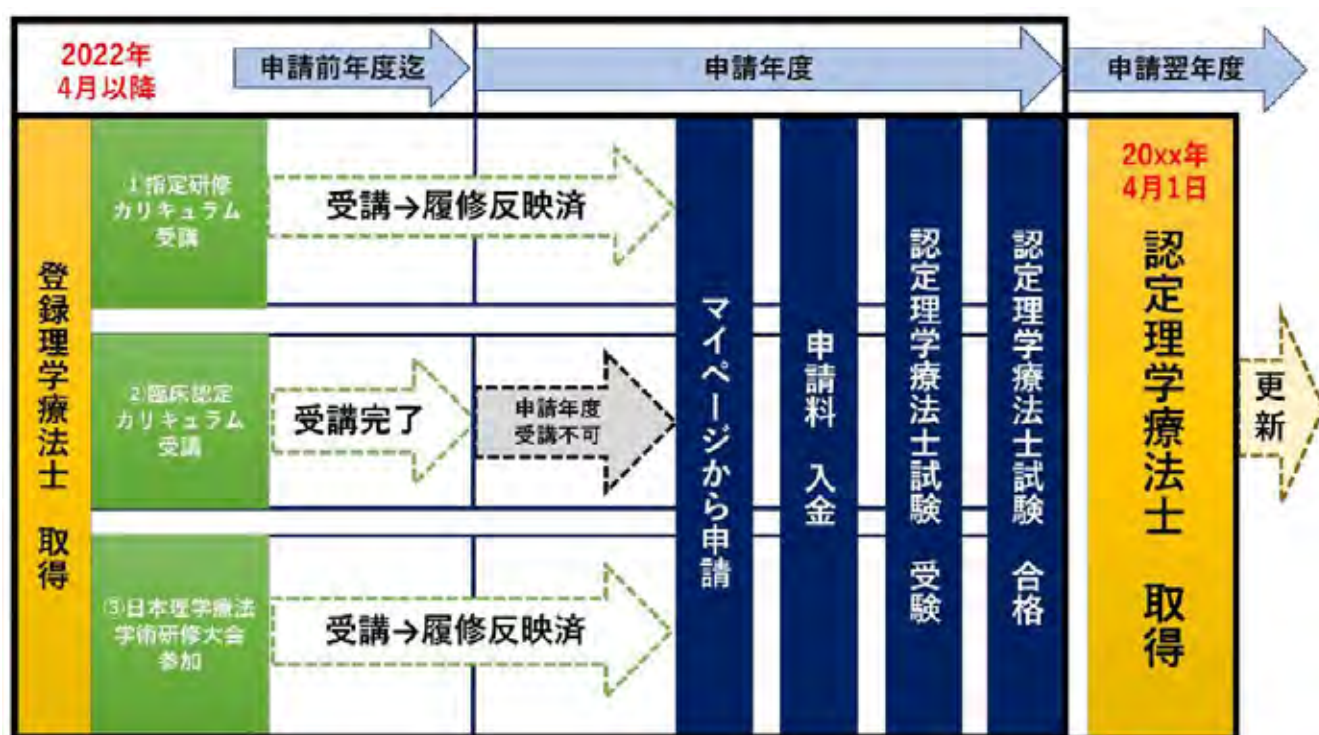


図1 認定理学療法士の取得方法(日本理学療法士協会HPより引用)

上記、認定理学療法士の取得方法(図1)を参考に以下の①～⑦を実施してください。

①指定研修カリキュラムを受講する。

eラーニングで12コマ(90分/1コマ)の研修カリキュラムとなり、同年度内に全てのコマを履修してください。全分野共通のため、複数分野の申請の場合は1回の受講でかまいません。

申請する日までにマイページに履修登録が完了している必要があります(反映まで修了後2～3日必要)。有効期限は履修日から5年間です。

②臨床認定カリキュラムを受講する。

申請を希望する分野を開講している教育機関で受講してください。認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関（20分野：2025年6月時点）は、<https://x.gd/3poEi>をご参照ください。

検索手順：「マイページ」⇒「生涯学習管理」⇒「教育機関検索」で詳細を確認してください。ただし受講に関しては、申請の前年度までに受講が完了している必要があります。有効期限は履修日から5年間です。

③日本理学療法学会研修大会への参加する。

毎年5月頃に開催される日本理学療法学会研修大会への参加となります。開催予定は<https://x.gd/Dfb8Q>をご参照ください。

申請する日までにマイページに履修登録が完了している必要があります（反映まで受講後1～2か月必要）。有効期限は履修日から5年間です。

④マイページから申請

申請時期は例年8月1日～8月31日です。申請要件を満たすと、マイページより申請が可能となります。

⑤申請料の支払い

10,000円（税別）

⑥認定理学療法士試験

例年12月に開催されています。試験問題は五者択一、マークシート形式で、指定研修カリキュラム・臨床認定カリキュラム（必須科目内容）の各シラバスに準じた問題が出題されています。

問題数：共通問題9問＋認定分野問題15問。試験時間：50分。

⑦合格通知

例年2月下旬に通知されています。

認定理学療法士取得方法の詳細は、日本理学療法士協会HP (<https://x.gd/m7gaj>) をご覧ください。
次回は、専門理学療法士取得編をお知らせしたいと思います。

第38回高知県理学療法士学会 開催報告 ～学会テーマ「築く」～

学会長 細田 里南



令和7年3月2日(日)、第38回高知県理学療法士学会を開催いたしました。臨床・教育・研究・社会貢献の各分野の架け橋となることを願って本学会のテーマ「築く」とし、特別講演やハンズオンセミナーを企画いたしました。ハイブリッド形式での開催となった今回、参加者は過去最多の473名のぼり、さまざまな職場環境や立場の方々に、明日への課題や希望を提供できたのではないかと思います。

特別講演Ⅰでは「成長し続ける組織を生み出すチームマネジメント」と題し、島根大学医学部附属病院の江草典政先生にご講演いただきました。リハビリテーション専門職として成長していくために、どのような組織づくりが求められるのかについて貴重なご助言をいただきました。また特別講演Ⅱでは、県立広島大学の西上智彦先生に「臨床－研究－臨床の循環～研究は臨床の困りごとの解決のためにある～」をご講演いただき、日々の臨床で向き合う患者さんに提供するリハビリテーション医療を発展させる手段として、研究活動がいかに身近であるかを再認識する機会となりました。一般演題には34題の応募があり、各セッションではそれぞれの施設で取り組まれ

ている研究内容について活発な討議が行われ、学会のテーマ通り高知県理学療法士協会が一丸となってリハビリテーション医療を築き上げていく必要性を改めて実感いたしました。個人的にも本学会を通じて、日々の課題を乗り越えるために必要である、常に前進する力をいただいたと確信しております。

最後になりますが、本学会の開催にあたり、企画・運営にご尽力いただきました学術部の皆さまをはじめ、関係者の皆さま、そしてご参加いただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



コルセット・装具・義足・義手・杖

宮本義肢製作所

(社) 日本義肢協会 登録番号 中四国 143

代表者 門 脇 伸 仁

高知市土居町11-15 TEL & FAX (088) 833-6864

第38回高知県理学療法学会 学会長賞を受賞して

近森リハビリテーション病院 高芝 潤



このたび第38回高知県理学療法学会において、「キャリア自律に関するコミットメントとの関係性—キャリア形成に向けた人材育成戦略—」という演題で学会長賞をいただくという大変光栄な機会に恵まれました。ご選考いただいた先生方、また日頃よりご支援・ご指導を賜っている皆様に心より感謝申し上げます。

医療現場の複雑化・高度化が進む中、理学療法士をはじめとするリハビリテーション専門職には専門性の向上だけでなく、自ら学び続ける姿勢＝「キャリア自律」が強く求められるようになってきています。しかし現状では、医師や看護職に見られるような体系的な継続教育制度が十分に整備されておらず、個々のキャリア形成が属人的な努力に依存しがちであるという課題があります。こうした背景から、組織としてどのように人材育成を支援し、専門職が自律的に成長し続けられる環境を整えるかが問われています。

本研究では、リハビリテーション職を対象にアンケート調査を実施し、キャリア自律が仕事への誇り（職業コミットメント）や職場への帰属意識（組織コミットメント）にどのように関係するかを分析しました。その結果、自らの意思で学び成長しようとするキャリア自律行動は、仕事のやり

がいや専門職としての意識を高

める要因であることが明らかになりました。一方で組織への関与については一律に高まるわけではなく、組織側からの期待や支援体制との「つながり」が大きく影響することも示されました。

私自身本研究を通じて、キャリアの主体性を育むことが組織にとっても人材にとっても重要であるという確信を深めることができました。これからも、専門職一人ひとりが将来像を描きながら成長できるような仕組みづくりと、キャリア支援のあり方を探求していきたいと思います。



福祉用具のことなら、弊社福祉用具専門相談員へご相談ください。

事業所番号：3970104919



株式
会社

トーカイ

高知営業所

高知県高知市南久保14-10

<https://www.tokai-corp.com/>

TEL 088-885-6511
FAX 088-885-5943

理学療法週間イベント報告



本年7月13日、高知市の金高堂ウッドデッキにて理学療法週間イベントが開催されました。今年度からは新たに編成された地域連携推進部イベント課が主体となり運営を担うこととなりました。私はこれまで保健部の一員としてイベントに参加してきましたが、責任者として関わらせていただくのは今回が初めてでした。またイベント課としても本事業が初の取り組みとなりました。

4月から少しずつ準備を進め、金高堂の担当の方や帯屋町二丁目商店街振興組合の方々との調整、ラジオ出演など日常業務では得られない貴重な経験を数多くさせていただきました。企画立案や備品手配、当日参加スタッフの調整など細やかな作業は多岐にわたり、段取りの難しさや予想外の出来事にも直面しましたが、八坂理事や徳弘部長のアドバイスのもと大きなトラブルもなく終えることができました。またそれは、運営スタッフ同士の距離を縮める良い機会にもなったと感じています。

当日は子どもから高齢者まで100名近い参加があり、時間帯によっては行列ができるほどの盛況ぶりでした。「自分の体を知ろう」というテーマのもと、筋力や体組成の測定を初めて体験される方も多く、皆様が自身の測定結果に関心を持ち、私たちの説明や運動アドバイスにも熱心に耳を傾けてくださいました。また小中高生の来場もあり、理学療法士という職業の紹介や養成校の資料配布などを行いました。

ご参加いただいた地域の皆様から直接お話を伺えたことは、私たちにとって大きな収穫となりました。理学療法士は医療機関や施設内での活動にとどまらず地域住民からも求められている存在であることを改めて実感することができました。そして多くの会員の皆様にご協力いただき、共にその場をつくり上げられたことは非常に心強く、また嬉しく思いました。参加された皆様からは「来てよかった」という嬉しい声を多くいただき、満足していただけるイベントとなったと感じています。

地域連携推進部イベント課としては今回の活動を振り返るとともに、測定結果の分析も今後の活動の参考として活用していきます。今後も会員同士の連携を大切にしながら、地域の皆様とのつながりも広げていけるようなイベントを企画・実施していく予定です。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。またイベント運営にご興味のある会員の皆さん、いつでも地域連携推進部への入部をお待ちしております。



地域連携推進部
イベント課長
小松 弘典



令和7年度 新人・転入会員歓迎会



厚生部長 江口 智博

今年度も約2ヶ月が経過し、新人会員の皆さんも各職場での業務に徐々に慣れ始めている頃かと思います。そんな中、高知県理学療法士協会では例年通り新人・転入会員を対象とした歓迎会を企画・開催いたしました。本会は新人オリエンテーションの一環として、定時総会終了後に開催されました。新人会員の皆さんにとっては、朝から夕方にかけてオリエンテーション、総会、研修会と盛りだくさんの一日だったことと思います。

新人歓迎会は1時間にも満たない短い時間ではありましたが、69名もの多くの会員にご参加いただきました。昨年度に比べ新人会員の申込者数が増加しており、生涯学習への関心の高さがうかがえました。また一般会員からは会長、副会長をはじめ、多くの理事、部長にもご参加いただき、短い時間ながらも交流の場として充実したものとなりました。

厚生部では昨年度より、新人歓迎会の企画として「役員 名前 ビンゴ」というゲームを実施しています。これは単なるビンゴゲームにとどまらず、高知県理学療法士協会にはどのような部が存在し、各部署長がどんな人物かを少しでも知ってもらうことを目的としています。今年も多くの部の部長が参加してくださり、限られた時間の中ではありましたが、協会の構成や役員について知る良い機会となりました。ただ全ての部長が参加できたわけではなく、また時間の制約もあるため、顔と名前を覚えていただくにはやや難しい面もあったかと思いますが、新人会員の皆さんにとって協会への理解を深めるきっかけとなっていれば幸いです。

景品はお肉の引換券やリラクゼーショングッズ、おもしろTシャツなどを中心に準備いたしました。高価

なものは多くは用意できませんでしたが、遊び心のあつた内容も含まれており、会場は笑顔と笑いに包まれました。全ての新人会員が何かしらの景品を手にすることができ、ささやかながら喜んでもらえたように感じます。

一昔前までは居酒屋などを会場に用意しての形式で歓迎会を行っていましたが、時代の流れや社会状況の変化に伴い、現在のようなスタイルへと変化しています。会員同士のつながりを築くという点では若干の物足りなさを感じる部分もあるかもしれませんが、同じ養成校出身の方や同じ職場の方と情報交換をしたり、相談事を共有したり、他愛のない話で盛り上がり、新人会員にとって良い交流の機会となっていれば幸いです。

今後は新人会員の皆さんがそれぞれの職場で多くの経験を重ね、理学療法士としての専門性と自信を深めていけることを期待しています。そして数年後には皆さん自身がこの歓迎会の運営を担い、新たに入会される後輩の皆さんを温かく迎えてくれることを心より願っております。

また理学療法士としての成長には生涯にわたる学びが欠かせません。協会が推進する生涯学習制度を積極的に活用し、常に最新の知識や技術を取り入れながら、質の高い理学療法を提供してもらいたいと思います。私たち協会も、その学びの場づくりを今後も継続して支援してまいります。

最後になりますが、新人歓迎会にご参加いただいた皆様、そして準備・運営にご協力いただいた全ての関係者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。





会員Baby「赤ちゃんこんにちは」



南国中央病院 甫木 啓徳

はじめまして、僕は快吏（かいり）です！

皆さんこんにちは、南国中央病院に勤務している甫木啓徳と申します。今回は我が家の長男を紹介させていただきます。

令和6年5月1日に甫木家の第二子として産声をあげました。生まれた時の身長は50.0cm、体重は3018gでほぼ予定日で生まれてきました。快吏という名前の由来は「明るく元気で周りから信頼される人に育ってほしい」という願いを込めて名付けました。

妊娠初期の妻はつわりがひどく、仕事も2か月ほど休むといった状態でした。中期以降は徐々につわりが落ち着き、少しずつ大きくなるおなかを見て第一子の長女が「ここに赤ちゃん居るが？」「お姉ちゃんになるが？パパとママ独り占めできる」とうれしい気持ち半分、寂しい気持ち半分で話していたことを覚えています。妊娠後期には夜間に病院へ行ったり、長女にマタニティフォトを撮ってもらったり（ボタンを押すだけの状態にセッティングはしました笑）、みんなで快吏が生まれてくることを楽しみにしていました。

妻は出産当日も普段通りに過ごしており、お風呂から出た後「少しおなか張る感じがする」「もうちょっと張ったら病院行く」と言っていたことを鮮明に覚えています。当日まで何度かおな

かが張っている、と病院に行っていたので今回もそれかな？と呑気に考えていました。当時は出産の立ち合いができるようになっていましたが、もうすぐ生まれる、というタイミングまで待たねばならず一旦家に帰って連絡を待っており、いざ立ち合いを始めてからは2時間ほどで生まれてきてくれました。生まれるまでつわりや陣痛に耐え頑張ってくれた妻には感謝の気持ちしかありません。

退院後は長女が初めて見る弟を見てすごく嫉妬していました。やっぱり寂しいという気持ちが強かったみたいです（笑）。2人目ということで長女の時と同じように夜泣きをしたり、縦抱きでないと寝なかったりと、似たところもあると思う反面、同じあやし方をして泣き止まず、改めて小さい時の子育ては大変と実感しています。

快吏ももう生まれて1年が経ち身長は74.2cm、体重は9.4kgと大きく育っています。まだまだ手放しで歩くことはせず、どこまでもハイハイで追いかけてきています。最近はソファの上に登れるようになったり変顔をしたりと、元気にマイペースで育ってくれています。これからもゆっくりと、自分のペースで育ってくれたらと思っています。快吏くん、すくすく育ってね。





高知県理学療法士連盟だより



高知県理学療法士連盟 会長 東 大和生

第27回参議院通常選挙結果のご報告

今年7月に行われた第27回参議院議員通常選挙におきまして、高知県理学療法士連盟が推薦した田中まさし候補（日本理学療法士連盟組織内候補者：自民党比例区）、大石宗候補（自民党高知・徳島選挙区）の選挙結果をご報告します。

田中まさし候補、大石宗候補ともに誠に残念ながら当選を果たすことができませんでした。ご支援いただいた会員の皆様には申し訳ない気持ちで、高知県理学療法士連盟の代表として皆様にお詫び申し上げます。

さて今回の選挙は与党である自民党の一部の議員による裏金問題が政治不審（自民党離れ）を招き、さらにこれまで政治に無関心だった層をうまく取り込んだ参政党の躍進が自民党の大敗につながったと言われていいます。自民党は比例区の獲得議席数を減らし12議席となりました。そのような中でも当選した医療職団体の候補者が3名います。獲得票数8番目の釜やちさとし候補（医師連盟）174,434票、10番目の石田まさのり候補（看護連盟）152,649票、11番目の本田あきこ候補（薬剤師連盟）152,548票です。

ちなみに12番目に鈴木宗男候補132,633票で、田中まさし候補は19番目88,432票でした。150,000票獲得できていれば当選できていました。3協会が力を合わせたら獲得できるはずの票だっただけに悔やまれます。

高知県内ではどうだったでしょうか？田中まさし候補781票、釜やちさとし候補959票、石田まさひろ候補818票、本田あきこ候補1,203票でした。こちらもありハ3協会が力を合わせていたら医療職団体のトップを取れたかもしれません。

今回「リハ職の賃上げ・処遇改善」を掲げた候補者を当選させることができませんでした。見方を変えると、我々は「賃上げ・処遇改善はいりません」と意志表明したとも取られかねず、これから厳しい時代に突入するかもしれません。しかしまだ希望は残っています。もう一人の組織代表である小川かつみ参議院議員の任期があと3年あります。

3年後の参議院議員では1議席死守、6年後の参議院議員選挙でもう1議席確保して組織代表2名体制を構築し、高知県においては小選挙区の推薦候補者の当選、リハビリテーションを考える議員連盟に入っていたいくことも視野に入れて活動してまいります。そのためには若い会員自らが主体的に活動していただけるような仕組みづくり、そして我々の「処遇改善」だけでなく、「リハビリテーション」を通じ県民一人一人の生活が良くなるような政策の提言を訴えていきます。

今後とも高知県理学療法士連盟の活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。





実験で使うところだけ生物統計1キホンのキ 決定版 実験で使うところだけ生物統計2キホンのホン 決定版

〈池田郁男 著 羊土社 2024〉

毎朝、天気予報で降水確率をチェックする。この「降水確率」とは、過去100回の同様な気象条件(空模様)データにて何回雨が降ったかを10%単位表わしたものである。降水確率が0%といっても、過去には雨が降ったことがないだけであり、今日は降るかもしれない。降水確率とは1mm以上の雨がその地方のどこかで降る割合であり、小雨とか土砂降りとかの降り方は関係ないのである。なお天気予報では、0%は「ゼロ」パーセントと読まずに『レイ』パーセントと言う。「ゼロ」は全くの無であり、「レイ」はゼロに限りなく近い値ということらしい。

そしてこの「確率」のデータを分析して解析し、広く全てに当てはまるよう理論予測するのが統計である。職場の新人には臨床研究を促し、それが医学的研究であることから、データの統計処理を求めがちである。しかし多くの新人にとっては、パソコンに搭載されているエクセル統計の中でどの統計処理方法(プログラム)を使えばよいか、それがどのような意味を持つか訳も分からず終いで周囲の過去論文に倣って発表原稿を仕上げてしまっているのではないだろうか。

過去に学校で習った統計学は役立たず、指導者や先輩に聞いても要領を得ない。一から学び直すにも多く

の統計学書は数式ばかりで読んでも解らないし読む気にもならない。パソコンではデータを入力してキーを押すと統計処理結果が表示されて手間要らず。便利な世の中であるが、統計処理方法が正しかったのから分らず、計算過程が省略されて理論もすっ飛ばしての、論文完成である。日頃論文を抄読するにして「P値」「Studentのt検定」「ウィルコクソン順位検定」などは目にするので理解も必要だし、自分の研究に当てはまる統計処理方法がどれかを考えておかないといけない。“統計の何たるか”が解っていなければ、「歩行」だってアフリカ人の歩容は異常歩行になってしまうのだ。なぜなら『正常歩行』はあくまで1950年代アメリカ人の平均的歩容の統計値に過ぎないのだから。

本著は、症例数や対象者を何名(例)集めれば研究が成り立つのかということから、統計処理をどうすればよいかということまで具体的に書かれてあって、統計の入門の入門書である。研究を指導する前に研究を始める前に読んでおいてほしい、お勧めの書である。

あとは「相関」についての続編が出版されることを期待！

(山本 双一)



物事に100%はない。毎日、点検・整備していても故障は起こる。
高知龍馬空港に緊急着陸して修理中のF35戦闘機 (撮影：山本)

賛助会員の皆様

令和7年度賛助会員名簿

施設名	住 所	診療科・他
(医)白菊会 白菊園病院	781-1154 土佐市新居萩の里1 TEL 088-856-1101 FAX 088-856-3364	内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、 外科、整形外科、脳神経外科、消化器外科、 小児科、リハビリテーション科
(学)土佐リハ学院 高知健康科学大学	〒781-5103 高知市大津乙2500-2 TEL 088-866-6119 FAX 088-866-6120	理学療法学専攻/作業療法学専攻
(医)瑞洋会 田中整形外科病院	〒780-0901 高知市上町3丁目2-6 TEL 088-822-7660 FAX 088-875-8583	整形外科、リハビリテーション科、麻酔科、 ペインクリニック内科、リウマチ科、内科(病棟)
(社医)仁生会 細木病院	〒780-8535 高知市大膳町37 TEL 088-822-7211 FAX 088-825-0909	総合診療科、内科、外科、整形外科、小児科、 耳鼻咽喉科、緩和ケア科、放射線科、泌尿器科、 脳神経センター(脳神経外科)、専門外来、 セカンドオピニオン外来、病理診断科、麻酔科
(医)五月会 須崎くろしお病院	〒785-0036 須崎市緑町4-30 TEL 088-943-2121 FAX 088-842-1582	内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、 眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、リハビリ テーション科、放射線科、麻酔科、人間ドック
(医)新松田会 愛宕病院	〒780-0051 高知市愛宕町1-1-13 TEL 088-823-3301 FAX 088-823-3306	内科、外科、整形外科、脊椎外科、脳神経外科、 婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、 心療内科・精神科、皮膚科、ER蘇生センター
(医)新松田会 高知医療学院	〒781-0270 高知市長浜6012-10 TEL 088-842-0412 FAX 088-841-1783	理学療法学科
(医)仁智会 ヘルシーケアなはり	〒781-6402 安芸郡奈半利町乙3740-1 TEL 088-738-5566 FAX 088-738-5564	入所、ショートステイ、通所(デイケア)
(学)高知学園 高知リハビリテーション 専門職大学	〒781-1102 土佐市高岡町乙1139-3 TEL 088-850-2311 FAX 088-850-2323	理学療法学専攻・作業療法学専攻・ 言語聴覚学専攻

すっかり秋めいてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。昼夜の寒暖差も激しく、衣替えをいつにしようか悩んでいる今日この頃です。

はじめに本会の組織再編により我々は「広報部」改め「広報誌部」と名前を変え、より広報誌編集に注力できる体制となりました。今号よりページ数を16ページから24ページと大幅にボリュームアップし、新たな記事も取り入れて読み応えのある1冊に仕上がったのではないかと思います。

巻頭言では組織再編に触れつつ会員の組織率低下を懸念する内容や生涯学習への取り組みを呼びかける内容が語られています。特に登録理学療法士の更新に関しては、いよいよ後回しにできない時期にもなってきましたね。皆さんポイント取得は進んでいますか？

役員紹介の記事を見ていただきますと聞きなれない部署も目にされるかと思います。役割が細分化され、メンバーも大幅に増えておりますので、ぜひ顔と名前を覚えてくださいね。

これからも高知県理学療法士協会ニュースでは、フォトコンテスト、会員baby、自由投稿など会員参加型のコンテンツを連載し、より親しみやすく目を通したくなるような雑誌が作れるよう頑張ってまいります。もちろん研修会や学会案内のような真面目な情報も載せていますよ（笑）。こんな記事があったら読みたいなあ、など率直なご意見、ご感想がありましたら広報誌部までお寄せいただけますと幸いです。高知県理学療法士協会ニュースと一緒に盛り上げていきましょう！それではまた次号をお楽しみに。

（濱尾 英史）

高知県理学療法士協会ニュース No.185 令和7年10月20日発行

発行所 公益社団法人 高知県理学療法士協会

〒780-0054 高知県高知市相生町1-25 レジデンスノナミ107号室

TEL&FAX : 088-879-8023

<http://www.kopta.net> e-mail:jimukyoku@kopta.net

発行者 大畑 剛

広報誌部編集委員会

